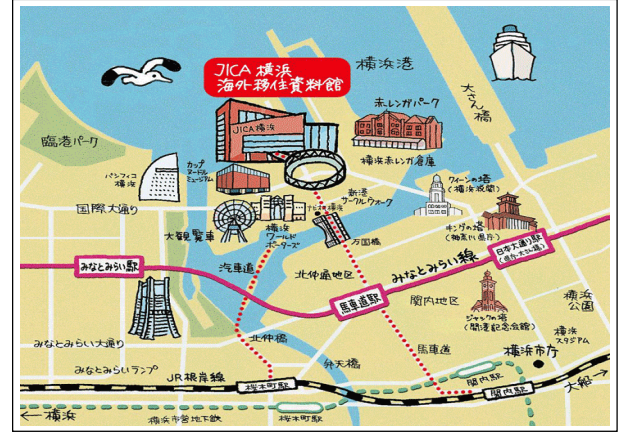


国際協力の現場を語る

JICA(ジャイカ:国際協力機構)は開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持ったシニア(40歳~69歳)を途上国に「シニア海外ボランティア」として派遣しています。この人達はシニアならではの、海外旅行などでの体験とは違った貴重な体験をしてくれています。そんな話題も含めて体験を語って頂きます。

日時:毎月第3水曜日 15時30分~17時
 会場:JICA横浜 1階会議室または4階セミナールームなど
 会費:無料(どなたでも自由に参加できます)
 主催:NPO法人「シニアボランティア経験を活かす会」
 後援:JICA横浜
 (やむを得ず日時・会場が変更される場合があります。事前にシニアボランティア経験を活かす会ホームページ、または下記問い合わせ先に確認して下さい。)



問合せ先:横浜市中区新港2-3-1 JICA横浜3階 国際協力連絡室内
 シニアボランティア経験を活かす会 水曜日
 Fax:045-663-3263 担当:井坂敏之(046-887-0286)
 URL jicasvob.com E-mail info@jicasvob.com

赴任国(講師名)	「タイトル」	講演概要
第167回 8月21日 (水) カンボジア (齋尾恭子)		<p>「カンボジアに派遣後15年間の交流の軌跡」</p> <p>JICAボランティアとしてカンボジアの王立農業大学に2年半滞在し、教官の指導を行い、カンボジアが大好きになりました。帰国後上記大学への集中講義、在日の学生の親代わり、教官の招聘など行ないましたが、本格的支援は2015年からでした。その仕事は、カンボジアにとって基幹的食糧である米の品質と安全性のために彼地の研究者との協同研究でした。今回はそのお話をします。</p>
第168回 9月18日 (水) ブラジル (伊藤恵利子)		<p>「笠戸丸から111年 ブラジル日系社会=『ジャポネスガランチード』」</p> <p>日本からブラジルへの最初の移民船は笠戸丸です。1908年(明治41年)4月28日781名の日本人を乗せ神戸港を出発し、6月18日にサントス港に到着しました。(この日は日本移民の日に定められています)それから、111年が経ちました。この間日系人はブラジルでどんな役割を果たして来たのでしょうか? ジャポネスガランチードとは? 日系移民の歴史と功績を知り、感動せずにはいられませんでした。そのほんの一部ですがご紹介したいと思います。</p>
第169回 10月16日 (水) ネパール (高知尾明彦)		<p>「広がった私の世界」</p> <p>観光するだけの旅行と違い、2年間のJICAシニアボランティア活動に参加したおかげで、住居周辺の人々の生活や文化に触れることができ、また知人が沢山出来ました。派遣前と帰国後では任地ネパールだけではなく、アジアの国々に対する見方が変わったように思います。出会った人々、歩き回った首都カトマンズの様子を紹介します。</p>
第170回 11月20日 (水) パラグアイ (元山市平)		<p>「日本の真裏でラパッチョの花咲く海も山もない親日的小国でのアレコレ」</p> <p>季節と昼夜が日本と全く逆転している南米の亜熱帯地域にある親日的な小国パラグアイで、主に「5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)活動、改善活動」の実践的な方法について、現地のコンサルタントを支援する活動を行ってきました。その概要と共に現地の様子及びこの間に出くわした各種トラブルと対処の様子を紹介したいと思います。</p>
第171回 12月18日 (水) ドミニカ共和国 (川村成子)		<p>「ドミニカ共和国日系社会での看護活動」</p> <p>戦後の荒廃した日本から「カリブの天国」と言われたドミニカ共和国へ移住し、約60年の歳月を生きている高齢者の方々とそのご家族を対象としての2年間。日系人として日本の文化や祖国日本への思い...それらが次世代に受け継がれていくことも感じました。共に考え、寄り添える看護を目指した活動の中で学び、体験した事例の一端を報告します。</p>